

広島県立総合技術研究所
水産海洋技術センター
事業報告
2014（平成26）年度

広島県立総合技術研究所
水産海洋技術センター
2015（平成27）年6月

はじめに

水産海洋技術センターでは、戦略研究領域の「かき生産技術高度化」において、事前研究「殻付かきの高付加価値化技術の開発」の2年目を実施しました。この中で開発を目指す技術は、殻付かきの生産効率を改善するための方法、生食用のかきとして安全性を高める方法及び殻付かきの身入りを非破壊で検出する方法の3つです。また、最終年度を迎えた開発研究「地域ブランド化に結びつくウマヅラハギの蓄養・養殖技術の開発」(H24～26)にも取り組みました。加えて、県立広島大学と共同で取り組んだ「低塩分処理技術の高度化による瀬戸内ブランド魚への活用」(平成26年度事前研究)についても、低塩分処理技術の活用につながる現場試験で効果が認識されています。その他に、研究成果移転促進事業として「むき身かき鮮度保持技術の成果移転促進」の2年目の技術移転を実施しました。一方では、総合技術研究所の東部工業技術センター等とともに戦略研究「特殊LED照明が県内多くの産業に波及するための研究」(H25～27)にも取り組みました。

関係者の皆様方の熱意・ご努力により、高鮮度を謳った新たなむき身かき商品が順調に生産を増やしております。また、「低塩分処理技術」につきましても、開発研究及び事前研究での取り組みによって、肝の充実したウマヅラハギの生産や活魚輸送のための一次蓄養に活用が期待されています。更に、これらの研究開発や研究成果移転によって、漁業協同組合や水産事業者、企業の方々との連携が深まり、新たな技術開発に向けた取組体制を構築することが出来ました。

現場ニーズに応えるため、その他の分野では調査研究や競争的資金の活用等により取り組むこととしています。また、県民の安心安全と水産事業者等の生産基盤確保については、赤潮・貝毒プランクトン調査、水質環境調査、魚類資源調査、疾病対策を行政支援事業として実施しました。

このような取組を行うに当たりご協力、ご支援いただいた多くの関係者の方々に深く感謝いたしますとともに、農林水産局水産課と農林水産事務所水産課、総合技術研究所及び所内の他センターとの連携により、県内産業の振興及び県民の安心安全、生産基盤確保に向けて職員一丸となって取り組めますので、今後ともご支援たまわりますようお願い申し上げます。

平成27(2015)年6月

広島県立総合技術研究所 水産海洋技術センター長

目 次

1	組織及び職員・職員の異動	1
1)	職員の配置	1
2)	職員の異動（平成26年4月1日）	2
2	試験研究等課題一覧	2
1)	戦略研究課題	2
2)	開発研究課題	2
3)	事前研究課題	2
4)	研究成果移転促進事業	2
5)	探索研究課題	2
6)	事業課題	2
7)	競争的資金研究課題	3
8)	受託研究課題	3
3	試験研究結果の概要	4
1)	戦略研究課題	4
	特殊LED照明が県内の多くの産業に波及するための研究	4
2)	開発研究課題	5
	地域ブランド化に結びつくウマヅラハギの蓄養・養殖技術の開発	5
3)	事前研究課題	6
	殻付かきの高付加価値化技術の開発	6
4)	研究成果移転促進事業	8
	むき身かき鮮度保持技術の成果移転促進	8
5)	探索研究課題	9
	かき生産改善技術（温度刺激による身入り促進）フォローアップ研究	9
6)	事業課題	10
	水産資源回復対策総合推進事業（広域連携資源増大対策事業）	10
	漁場環境・生態系保全向上対策事業（赤潮・貝毒漁場環境監視事業）	12
	水産業技術指導事業	14
7)	競争的資金研究課題	16
	持続的養殖生産・供給推進事業	16
	漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業	17
8)	受託研究課題	18
	メバル・カサゴ親魚養成技術開発研究	18
	灰塚ダム陸封系人工アユ種苗の放流後の特性把握	18
	灰塚湖天然遡上アユの持続的活用のための基礎調査	19
	広島県内における新規かき殻利活用システムの実現性に係る研究	19
4	技術支援関連業務の概要	20
1)	試験研究等に関する企画調整	20
2)	技術支援関係	20
3)	広報活動	22
4)	その他	24
5	観測資料	25
1)	定時観測結果（平成26年1月～12月）	25
2)	漁場環境観測結果	26

平成 27 年（2015 年）6 月

発行 : 広島県立総合技術研究所
水産海洋技術センター
技術支援部

〒737-1207

広島県呉市音戸町波多見 6 丁目 21-1